



# 第11号

# パンダ通信

2010年4月9日発行

発行・問い合わせ先

特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2階

TEL 052-253-7550 FAX 052-253-7552

## 中国・四川大地震パンダタオルプロジェクト

2008年5月12日、中国・四川省をM8級の地震が襲いました。死者・行方不明者8万人以上、数百万人が避難生活を続ける大災害に対し、私たちは「忘れない、思いをはせる、気持ちを届ける」を合言葉に日本からの支援策を探ってきました。そこで生まれたのが「パンダタオル」です。見た目はかわいくとも、被災地と私たちをつなぐメッセンジャー。当通信は、パンダタオルをめぐる活動や被災地の状況をお伝えしながら、復興支援への協力を呼び掛けます。

## 「2年目を迎える四川の今 ～光明村の課題と希望～」

吉椿雅道氏（CODE 海外災害援助市民センタースタッフ）

第6回現地報告会の内容を一部抜粋

震災から2年を目前にした、北川県光明村の課題について報告します。今回被災された方々は、もともと近場での職の確保が難しいため、出稼ぎに行き、収入を得て生活をしているケースが多くみられます。2008年5月の中国四川大地震後、リーマンショックなどの影響で、東海岸沿岸部の工場がたくさん閉鎖し、出稼ぎに行っていた人たちは仕事を失うことになりました。地震直後は、家の再建に伴いレンガの需要も多く、光明村にも外資のレンガ工場が建設されたので、村の人たちは村内で働くことができました。しかし、再建の進行と共に需要は減り、レンガの質の問題なども重なって、工場はことごとく閉鎖してしまいました。



2009年半ば以降、沿岸部で再び求人募集が始まりました。村の人たちはなるべく村内で働きたいという希望を持っていましたが、仕事がないため出稼ぎに行かざるを得ませんでした。政府は、被災地の住宅再建は90%以上終了したと発表しており、光明村の住宅再建もほとんど終わっているという状況です。しかし村の人たちは、再建のための資金繰りとして、親戚からお金をかき集め、さらに政府から補助金を受け、ローンの借入れを行いました。政府の斡旋により、最大で5万元借りることができますが、最初の1年目で15%、2年目で35%、3年目で50%の返済規則があり、多くの方々が不安を抱えています。返済が始まってからすでに1年半が経過しているため、被災者の中で焦りもでてきています。村の人たちの大きな楽しみのひとつであった村の祭りに対しても、「それどころではない。とにかく働かなければ生きていけない」という声があがっていたのも事実でした。

そんな中、3月5日に世界婦人デーを記念してお祭りが開催されました。RSYの方々が、歌や踊りに参加したり、おにぎりや豚汁の炊き出しをふるまい、パンダタオルと一緒に作ったりする中で、村の人たちとの交流も深まったようでした。特に参加したお年寄りが、あんなに生き生きとした表情を見せてくれたのは初めてでした。2年近く経った今でもずっと被災地のことを忘れずに応援しているという皆さんの気持ちが、村の人達にも伝わったからだろうと思います。村で唯一のお医者さんは、「地震の時には日本人のボランティアがたくさん来て助けてくれたとういうことを、自分の孫に語り続けたい。そしていつか日本に留学させたいと思っている」と話してくれました。日本とのつながりをこのように捉えて頂けてうれしく思いました。私たちやRSYの活動は大きな支援ではなく、ささやかなものです。しかし、その「ささやかなさ」の中にこそ、被災された方々の次への希望に繋がるものがあると思うのです。今回パンダタオルが残したものは、ささやかな希望だと思います。この希望を次の希望へ、そして復興にどのようにつなげていくかが私たちの仕事だと思っています。

**日本の人たちに伝え続けること  
が僕の役目だと話す吉椿さん**

# 活動報告

日付	内容	場所/主催
2月10日	パンダタオル手づくり教室	RSY事務所/RSY
3月24日	第6回現地報告会	名古屋国際センター/RSY

## 「3月4日～7日 現地訪問」



今回は訪問の目的として、「親睦を深める」「生きる力を学ぶ」「日本の減災の知恵の提供」の3つを掲げていました。現地では、光明村で開催されたイベントへの参加（プロジェクトの紹介と日本の歌と踊りの披露）、炊き出し（豚汁・おにぎり）、手作りパンダタオル&防災頭巾教室の開催、棚花村で「語り部」を囲んでの意見交換、観光地化している被災エリアの見学などを行いました。

## 「中国四川大地震パンダタオルプロジェクト第6回現地報告会の開催」



3月24日に名古屋国際センターで第6回現地報告会が行われました。報告会には、プロジェクトの立ち上げ当初から、作業部会やパンダタオルづくり、パンダキットの寄付など、様々な形で支えてくださったボランティアさんを中心に約30名が来て下さいました。RSYスタッフより、約1年半に渡るプロジェクトの取り組みを紹介した後、3月上旬の第4次現地訪問に参加したメンバーが、活動の報告をしました。そして、ゲストでお迎えした吉椿雅道さん（CODE海外災害援助市民センター

スタッフ）が、地震発生からまもなく2年を迎える四川の現状について報告をされました。パネルディスカッションでは、「パンダタオルが被災地にもたらしたもの、私たちにもたらしたもの」をテーマに話し合いを行いました。最後にお茶とお菓子を囲んで、参加者同士の交流会を開催し、お互いの想いの共有を図ることができました。

\*\*\*\*\*

### ☆事務局より☆

今年度の取り組みは、株式会社ラッシュジャパン「LUSHチャティーバンク」より助成金を頂き実施することができました。また、キットの準備、パンダタオルの作成、イベントの開催等1000名を超えるボランティアの皆さんが、この活動を支えて下さいました。この事業に関わって下さった全ての皆さんに心から感謝致します。今回お届けしきれなかったパンダタオル約150個については、名古屋市千種区に拠点を置く「日本中国友好協会愛知県連合会」を通じて、7月頃に被災した子どもたちの手に届けて頂く予定です。また、震災から2年の節目を目指して、これまでの活動を報告書にまとめ、ご協力頂いた皆さんに送付したいと考えています。CODEから発信される被災地の情報は、MLやHPなどを通じて引き続き皆さんにも提供していく予定です。プロジェクトの2大目標であった、パンダタオルのお届けと被災地での交流は、ほぼ達成できたため、今後はこれまでのような積極的な取り組みは一区切りとなります。しかし、ここで生まれ、育まれた被災地を想う心や、ボランティアの輪を今後も大切に、引き続き現地の復興の経過を見守りつつ、被災地の現状に沿った支援を、可能な限り検討していければと思っています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

また、第6回現地報告会については、改めて報告させていただきます。